

1. 研究の背景と目的

仙台市地下鉄東西線は平成 27 年 12 月に開通する。少子高齢化が進む西の起点駅、八木山地区でも新住民に対する期待は大きい。一方、1987 年に開通した地下鉄南北線の八乙女駅・黒松駅・旭ヶ丘駅周辺地区は住宅が多く八木山地区と類似しているため、3 駅周辺の南北線開通後の人口動態の変化は八木山地区の将来をある程度表しているといえる。そこで本研究では南北線の 3 駅と八木山動物公園周辺地区の人口動態を分析し、八木山の将来を予測することを目的とする。分析データは平成 2 年～22 年の 20 年間の国勢調査を使用する。分析対象の駅勢圏としては一般的な 1.5 km 範囲とした。

2. 人口分析

図-1,2 は 3 駅周辺の人口動態を示している。駅勢圏内の地区の町丁目別に 20 年間の人口増加率を求めた。増加地区を赤、オレンジ、黄などの暖色系で表し、減少地区を水色、青、紺色の寒色系で示した。3 駅の駅勢圏では地区ごとに大きな違いがあることが分かる。



図-1 八乙女駅勢圏 人口増加率

3.1 八乙女駅勢圏

図-1 から明らかなように、八乙女駅勢圏では全体的に暖色系色が多く、人口が増加している。特に八乙女駅周辺の八乙女中央は大型スーパーなど生活利便性が高く、多くの地区で人口が増加している。図-3 は特に人口増加が激しい、八乙女中央 1 丁目の 5 歳年齢階層別人口の推移をしめしている。八乙女中央 1 丁

駅勢圏、仙台市地下鉄、人口変動変化
東北工業大学 尾形 湧司

目は住宅取得年代の 30 歳～34 歳の年代が年々増えている。地下鉄開通 10 年以降の平成 12 年以降は更に増加し、高齢化が進んでいないことが分かる。

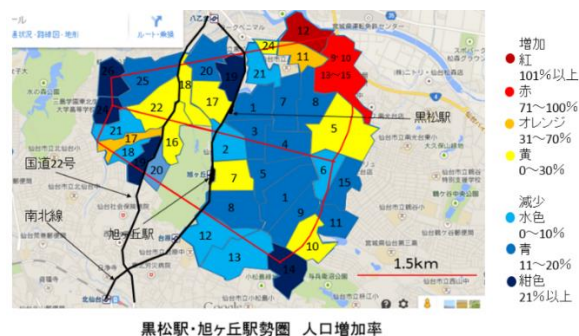


図-2 黒松・旭ヶ丘駅勢圏 人口増加率

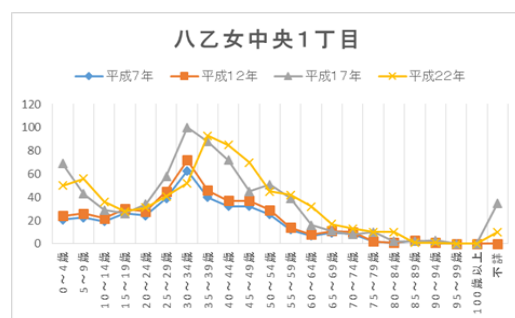


図-3 八乙女中央 1 丁目 5 歳年齢階層別

八乙女地区で唯一 9.1%と人口が減少しているのが八乙女中央 2 丁目だが、その理由は住宅が少なく飲食店など非居住建築が増えたため考えられる。

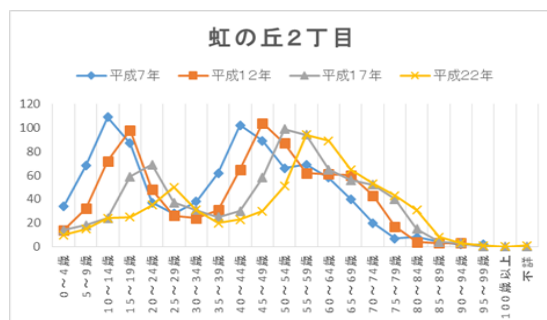


図-4 虹の丘 2 丁目 5 歳年齢階層別

3.2 黒松駅勢圏

図-2 から黒松駅の西側、旧国道 4 号線周辺は人口が増加しているが、黒松 3 丁目や虹の丘 2 丁目は人口を減らしていることが分かる。図-4 は虹の丘 2 丁目の人口の推移である。虹の丘 2 丁目は 1980 年代に建

設が進んだ戸建て住宅街である。新築で住宅を取得した家族は10年後には40歳代となり、多くの小中学生がいた。それが15年後の平成22年には、子供は出て行き高齢者の町になった。人口曲線の右ずれは住民の入れ替えが少なく、そのまま高齢化していることを意味する。地下鉄南北線の影響は全く見られない。

3.3 旭ヶ丘駅勢圏

旭ヶ丘3丁目は地下鉄の駅前地区であるが、大規模なマンションが少なく、小規模のアパート、小規模商店、戸建て住宅が混在している地域である。旭ヶ丘駅勢圏では、駅周辺の旭ヶ丘3丁目が唯一の人口増加地区で増加率は0.8%と大きくないが、全体的に人口減少しているため、地下鉄駅が増加の原因と考えられる。人口パターンも安定しているため、適度に住民の入れ替えが起っており、急速な高齢化は見られない。

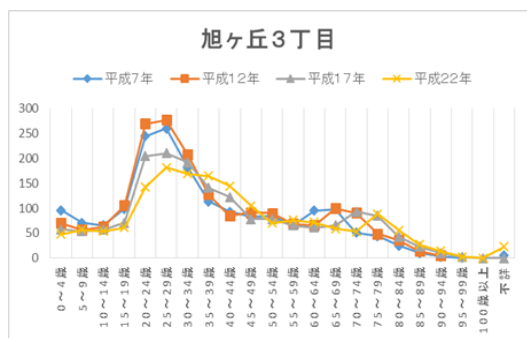


図-5 旭ヶ丘3丁目 5歳階層別

20歳代の若者が減っているのは町の老化が進み、人氣がなくなってきたことを意味していると思われる。

4. 八木山動物公園駅勢圏の将来

ここでは仙台市地下鉄東西線の開通による効果を、駅周辺の八木山本町1丁目と持ち家の世帯数が多い金剛沢2丁目の5歳階層別人口を参考に地下鉄南北線沿線のどの地区に当てはまるかを考察する。

1) 500m以内地域

八木山本町1丁目はアパートの世帯が多く人が常に入れ替わっている。この地区は近くに大学あることから若者が多い地区である。家の密度も高いことから、南北線の旭ヶ丘1丁目に類似している。従って、地下鉄南北線の開通により、通学の若年層および、30歳から45歳の住宅所得層が徐々に増加すると予測される。ただ、よほどの再開発が生じない限り、八乙女のような急速な成長は望めない。

2) 1000m以遠地域

金剛沢2丁目はアパートなどの借家が少なく、持ち家の世帯が多い地区である。八木山では比較的遅く、

1980年代に開発が進み、同年代に開発された虹の丘2丁目と類似している。従っても同様に高齢化が進み若者が急激に減少しているため高齢化が進んでいる。このため、虹の丘と同様に地下鉄の効果は予想されず、このままの高齢化が進行すると予測される。

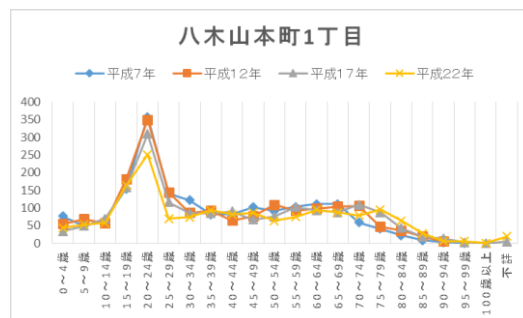


図-6 八木山本町1丁目 5歳階層別

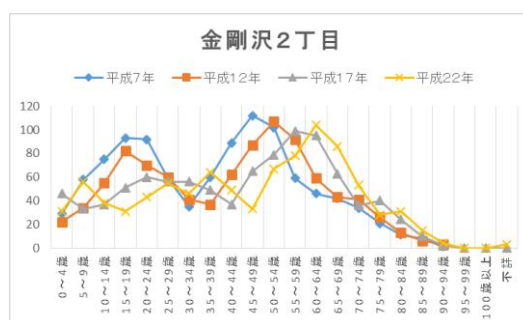


図-7 金剛沢2丁目 5歳階層別

5. 結論

本研究では1987年に開通した地下鉄南北線の八乙女駅・黒松駅・旭ヶ丘駅周辺地区の人口動態の変化を分析し、本年に開通する仙台市地下鉄東西線による八木山動物駅勢圏の人口動態にたいする影響を予測した。得られた主たる結論は以下の通りである。

- 1) 地下鉄開通による影響は駅からの距離のみならず、地域の住宅の構成（持ち家、借家）比率、住宅の開発年代、大学などの施設、UR等の公営借家によって大きく異なる。
- 2) 八木山動物公園から500m以内は旭ヶ丘のように徐々に発展し、人口が増加すると予測された。
- 3) 駅から1,000m以上離れた地域では、開発年代により高齢化が継続するか、入れ替わるかが決まってくる。
- 4) 駅から1,000m~1,500mでも開発の余地があれば急速に発展する可能性がある。

参考文献

- (1) 駅勢圏 Wikipedia
- (2) 国勢調査 年齢5歳階層別